

工事事故防止行動計画 ニュースレター

工事事故「0」を目指して

令和元年6月21日事故発生

架空線は大丈夫と思っていたら...



街灯が落下したが、人的被害なし

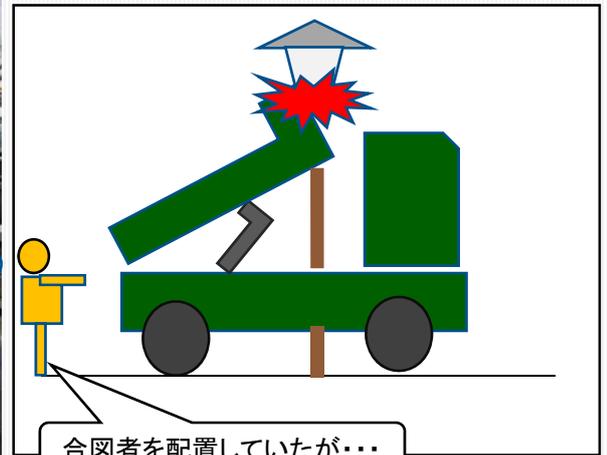
5.6m

「頭上注意」標識・表示なし

「ハザードマップ」に「街灯」の記載なし

【被害】

- ・街灯を破損
- ・復旧までに「4カ月」
↓
- ・工事中断 「4日間」
- ・公衆損害で「減点」



合図者を配置していたが...

【事故の概要】

- 道路の舗装補修工事でのダンプによる運搬資材の荷卸し現場
- 合図者をダンプ後方に配置していたが荷卸し作業で運転手へ合図する役割と架空線への影響を監視する役割を担い、街灯への注意が散漫になっていた。
- 合図者が運転手から見えるよう運転席側後方にいたため、街灯側が死角になっていた。
- 街灯の存在は確認されていたがハザードマップに記載されていなかった。
- 朝礼で合図者を含む作業員全員に街灯と架空線に注意するよう周知したが架空線に気を取られ街灯への注意は散漫になってしまった。

【再発防止策】

- 荷卸し合図者と別に架空線、街灯等の見張員を配置し腕章、色分けしたベストにより識別できるようにする。
- 頭上施設を事前確認し両路肩に注意喚起標識を設置すると共に接触のおそれのあるエリアをチョーク等で地面に明示し、そこではダンプアップさせない。
- 材料搬入の都度、運転手を降車させ合図者、見張員と共に頭上物件、位置、作業の合図の仕方を確認する。

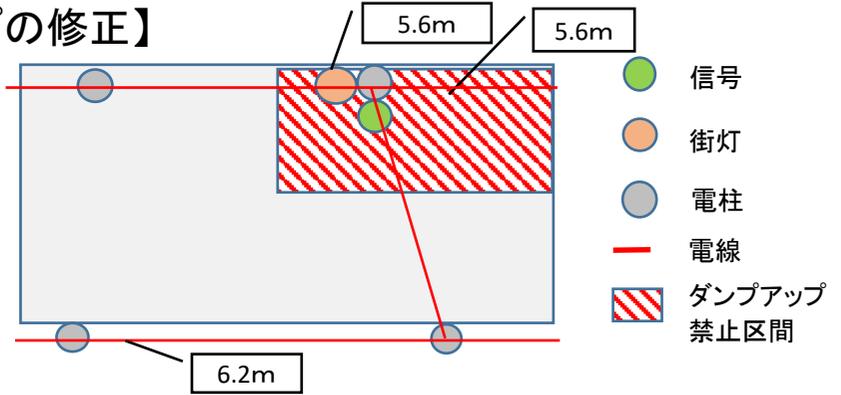
交通基盤部 土木工事 事故発生件数	事故分類	工事関係者(傷害)	第三者(傷害)	第三者(物損)	工事事故合計	令和元年 11月末現在 (前年同期)
	件数	0件(1)	0件(1)	20件(23)	20件(25)	

令和元年11月30日までで「死亡事故ゼロ」1352日を達成しました！

【再発防止策-ハザードマップの修正】

<事故により修正したハザードマップ>
(イメージ図)

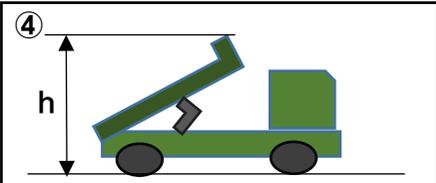
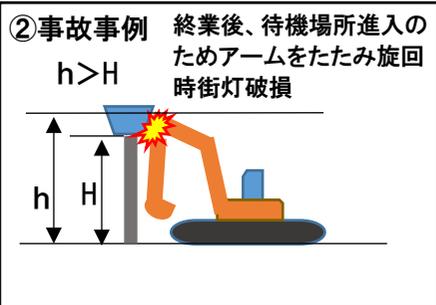
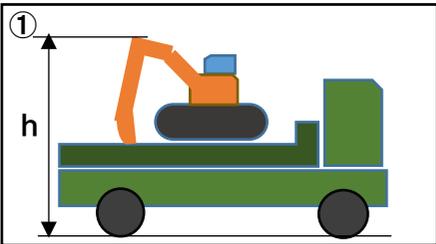
- ・平面図上に支障物と高さを明示し、ダンプアップで接触する可能性のある影響範囲を明示
- ・現場では影響範囲をチョーク等で明示



現場の頭上支障物件接触事故防止のための事前確認・対策フロー

作業工程での頭上影響範囲hの確認

- ①バックホウ等の搬入・搬出時
(運搬車荷台高+バックホウ等アーム高)
- ②日々のバックホウ等の現場への進入・退出時
(バックホウ等のアーム高)
- ③バックホウ等アーム最大上げ高
- ④ダンプのダンプアップ高
- ⑤施工基面の最大高時の①~④の高さ
- ⑥ヤード内移動時の③④の高さ



現場の頭上支障物件までの高さHの調査

- 現場の頭上支障物件の確認
- ・架空線 **複数ある場合はHが小さいものから配慮!**
 - ・街灯
 - ・看板、案内標識
 - ・橋桁 等

頭上支障物件の高さHの確認
施工基面から頭上支障物件までの高さ
(施工基面変化時は最大高時を考慮)
(最大高時:高さH最小時) 図⑤参照↓

$h \geq H$ 今回の街灯(下端部)までのH=5.6m

- 頭上支障物件接触事故防止対策
- ①接触影響範囲を明示
 - ・柵やロープ、旗等で周囲と区分
 - ・路面標示
 - ②架空線等に防護カバー、旗等をつける
 - ③誘導員等を付け頭上支障物件に接触しないよう指示
 - ④旋回・アーム引き上げ時、ダンプアップ時等に誘導員等不在の場合にはオペレータやドライバー自らが重機操作前に装置の移動先に支障物件がないことを確認

今回、③対策を講じていたが、架空線に気を取られていた

